

《特集》研究論文

乳幼児の親子のメディア活用の実態と意識 —2013年・2017年調査から—

高岡純子 (ベネッセ教育総合研究所 次世代育成研究室長、主任研究員)

要約

近年、乳幼児の生活にスマートフォン、タブレット端末等のメディアが浸透し始めている。テレビやビデオなど以前からあるメディアと比較的新しいメディアであるスマートフォン、タブレット端末などを含めた乳幼児とその親のメディア活用の実態と意識について、首都圏に住む0歳後半から6歳就学前の乳幼児を持つ母親を対象に実施されたメディアについての2回の調査(2013年および2017年)の結果から明らかにし、親子のコミュニケーションツールとしての可能性とリスクを検討する。2013年から2017年までの4年間で乳幼児がスマートフォンを「ほとんど毎日」使う割合は、11.6%から21.2%へと増えた。親子でのメディアの内容についての会話では、親の養育態度や各メディアに対する親自身の親和性に関連することが示された。また、スマートフォン、タブレット端末等での使い方では、親子で撮った写真や動画を見たり、子ども自身が写真を撮るなどのツールとして使われていた。今後の課題として、スマートフォンやタブレット端末の使用時の親子でのやりとりを詳細に把握し、それがどのように乳幼児の発達に影響を及ぼすのかといった親子のコミュニケーションを媒介する役割について検討をすることが必要であると思われる。

キーワード：乳幼児とメディア、スマートフォン、タブレット端末、テレビ、ビデオ・DVD

はじめに

ここ数年で、スマートフォンやタブレット端末が急速に普及している。小さな子どもがスマートフォンを触っている姿をしばしば街で見かけるようになった。子どもにとってスマートフォンは毎日目にする身近な

存在になっていると言えるだろう。子どもたちは、どのようにメディアに触れているのだろうか。ベネッセ教育総合研究所では、2013年と2017年の2回にわたり、首都圏(東京、千葉、神奈川、埼玉)に住む0歳後半から6歳就学前の第一子の乳幼児を持つ母親を対象に、メディアについての調査を行った(2013年はサンプル数3,234名、郵送法によるアンケート調査、2017年はサンプル数3,400名、インターネット調査)。この調査は、乳幼児の親子の生活にメディアがどのように使われているのかについての実態と意識を親に尋ねたものである。テレビ、ビデオ・DVD、スマートフォン、タブレット端末、ゲームなどについて、乳幼児のメディアの活用の様子を把握し、親子のコミュニケーションのツールとしての可能性とリスクを検討したい。

乳幼児はメディアを どれくらい使っているのか

ビデオ・DVD、スマートフォン、タブレット端末の1週間の乳幼児の視聴頻度について、2013年と2017年を比較したグラフが図1である。ビデオ・DVDは視聴頻度が減少しており、スマートフォン・タブレット端末は増加している。乳幼児がスマートフォンを「ほとんど毎日」使う割合は、4年間で11.6%から21.2%

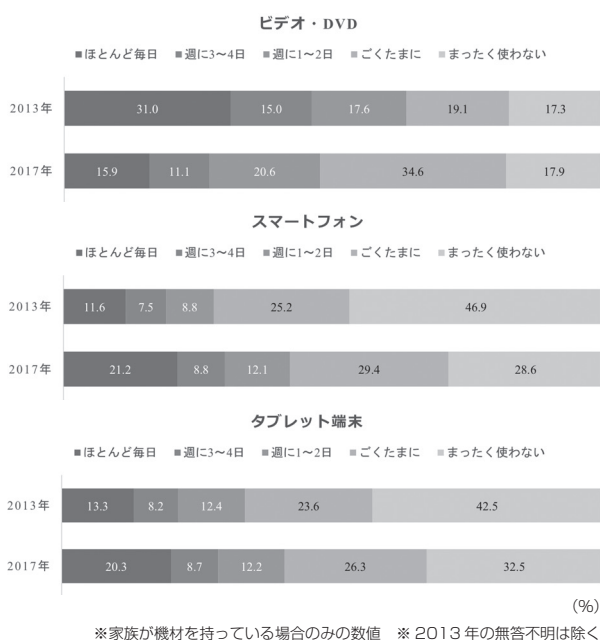


図1：ビデオ・DVD、スマートフォン、タブレット端末の1週間の視聴頻度

へと増え、「週に1～2日以上」使う割合は27.9%から42.1%に増えている。図に示してはいないが、どの年齢でも総じて増加しており、特に0、1、2歳児で増加幅が大きい。「週1～2日以上」では、0歳後半で26.9%（2013年5.1%）、1歳39.8%（同25.7%）、2歳51.5%（同37.4%）である。スマートフォンのタッチパネルは乳幼児でも指で触れれば画面が反応するため、親が使っている様子を傍らで眺めているうちに、使い方を自然に覚えてしまう子どもが多いのではないだろうか。

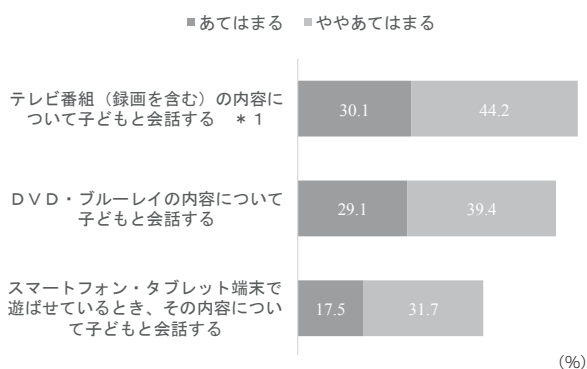
メディアを使った親子のコミュニケーション

図2は、メディア使用時の親子のコミュニケーションの様子について聞いたものである。メディアについて親子で会話をしている割合は、テレビ番組（録画を含む）では74.3%（「あてはまる」「ややあてはまる」の合計）、DVD・ブルーレイでは68.5%（同）、スマートフォン・タブレット端末は49.2%（同）であった。子どもと一緒に見たかどうかや見た後に話し合うかどうかなどの“共有機能”に関する先行研究では、1歳時点でのテレビの内容に関する親子の会話が2歳時点での子どもの語彙獲得数を高める効果が示されており（菅原、2006）、親のかかわりによってメディアが子どもへの肯定的な影響を強める可能性がうかがえる。

さらにメディアごとに分けてメディア使用時の親子の会話に関連する要因を見ると（重回帰分析、表1・表2）、表1に示したテレビ、DVD・ブルーレイ視聴中では、親子で一緒に活動（外遊びや言葉遊び、お絵かき等）との関連が見られ、親自身がテレビを見るのが好きである等のテレビの親和性との関連も高かつ

た。また、スマートフォン・タブレット端末の内容について話し合うことが多い親子では、表2に示すように、親の養育態度に加えて、アプリやソフトのメリットを理解していること、親自身のインターネットやゲームへの親和性の高さが関連していた。いずれのメディア媒体においても、子育てへのかかわりが全般的に高い親に視聴中の会話があるという点は共通しており、スマートフォン・タブレット端末の場合にはさらに、アプリ・ソフトの特徴を知ることや親自身も楽しむことが親子のコミュニケーションにつながることを示唆される。今後は、各メディアにおいて何についてどのように親子で話しているかの詳細を明らかにする必要があるだろう。

それでは、スマートフォンやタブレット端末などでの具体的な使い方を見てみたい。図3は、パソコンやスマートフォン、タブレット端末、携帯電話で子どもにさせていることを聞いた結果である。多いのは、「写真を見せる」（「よくある」「ときどきある」の合計で84.4%）、「あなたやお子さまが撮った動画を見せる」（同76.2%）であった。子どもが低年齢（0～2歳）から高年齢（3～6歳）にあがるにつれて、「写真を撮らせる」（0～2歳30.0%、3～6歳63.1%）、「電話をさせる」（0～2歳26.5%、3～6歳52.4%）、「ゲームをさせる」（0～2歳7.5%、3～6歳33.4%）などの項目で割合が大きく増加しており、徐々に子ども主体で使うようになる様子がうかがえる（図4）。調査設計の段階では、「写真を撮らせる」は、親が幼児にスマートフォンやタブ



※それぞれのメディアで1週間のうちに「ごくたまに」以上の頻度で見たり使っている乳幼児のみの数値

※テレビ（3,249）、DVD・ブルーレイ（2,303）、スマートフォン・タブレット端末（2,501）

※* 1 「録画を除くテレビ番組」「録画したテレビ番組」のどちらかで「ごくたまに」以上の頻度で使っている場合を回答母数とした

図2：親子でのコミュニケーション（2017年）

表1：テレビ、DVD・ブルーレイの内容について子どもとの会話に関連する要因（2017年）

	β
子ども年齢	.136 **
母親学歴 ^b	.019
母親の就労状況 ^c	-.023
世帯年収 ^d	-.042 *
子どもへの話しかけ得点	.203 **
親子で一緒に活動	.192 **
学びの環境整備	.022
思考の促し	.249 **
子育て肯定感	.019
子育て否定感	.035
ネット・ゲーム親和性	.032
テレビ親和性	.054 **
アプリのメリット感	.063 **
アプリのデメリット感	-.005
R^2	.338
F	88.040 **

a. 従属変数 TV/DVD会話得点

b. 母親の学歴は、短大・大学・大学院卒=1、それ以外=0としてダミー変数化した

c. 母親の就労状況は、有職=1、無職=0としてダミー変数化した

d. 世帯年収は、800万円以上=1、800万円未満=0としてダミー変数化した

* $p < .05$. ** $p < .01$.

表2：スマートフォン・タブレット端末の内容について子どもとの会話に関連する要因（2017年）

	β
子ども年齢	.037
母親学歴 ^b	.010
母親の就労状況 ^c	-.015
世帯年収 ^d	-.004
子どもへの話しかけ得点	.196 **
親子で一緒に活動	.186 **
学びの環境整備	.011
思考の促し	.130 **
子育て肯定感	.015
子育て否定感	-.032
ネット・ゲーム親和性	.141 **
テレビ親和性	.014
アプリのメリット感	.209 **
アプリのデメリット感	-.085 **
R^2	.267
F	31.612 **

a. 従属変数 スマホ会話得点

b. 母親の学歴は、短大・大学・大学院卒=1、それ以外=0としてダミー変数化した

c. 母親の就労状況は、有職=1、無職=0としてダミー変数化した

d. 世帯年収は、800万円以上=1、800万円未満=0としてダミー変数化した

* $p < .05$. ** $p < .01$.

レット端末を手渡して使わせることになるため、慎重となり、割合が低いのではないかと予測したが、実際には、3～6歳で約6割と比較的高い割合となった。スマートフォンやタブレット端末は、写真や動画を見るという受け身の使い方だけでなく、自分で写真を撮るツールとしても使われている様子がうかがえる。

スマートフォンの活用を親はどのようにコントロールしているか

現在の乳幼児の親の中心である30代は、幼小の頃から家庭用ゲーム機があり、親しんできた世代である。図には示していないが、本調査で親自身のメディアとのかかわりを世代別に見ると、「ゲームアプリ・ソフトで遊ぶのが好きである」「家にいるとき、テレビをつけたままにしている」割合は、年齢層が低いほど高くなっている。子どもに対しては、子ども自身が気に入っているという回答が一番多い一方で、一定の配慮を持って、メディア使用から生じる危険から守ろうとする意識もうかがえる。図5は、動画やアプリ・ソフトの選択基準について聞いたものであり、「子ども自身が気に入っている」「あてはまる」「ややあてはまる」の合計で89.5%、「子どもの年齢に内容が合う」(同86.0%)、「子どもにさせたい目的と合う」(同64.9%)等の割合が高い。乳幼児を対象としたアプリ・ソフトにはさまざまな種類があるため、どれを選んだらよいのか、判断に迷うことが多いと思われる。そのような状況の中で、親自身が子どもの興味関心や発達段階に合わせて適切なものを選ぶ眼を持つことがますます求められていくのではないだろうか。

また実際に子どもがスマートフォンを使う場合に家庭で工夫していることについて自由記述で尋ねたところ(表3)、多い順から「長時間見せない」「使用させない環境を作る」「親と一緒に使う」「使う機能を制限する」「音や明るさなどの視聴環境に配慮する」となった。1、2位には使う時間を制限する、ロックをかけるといった時間や機能を制限して使用(視聴)をコン

トロールする項目が続いている。3位の「親と一緒に使う」では、勝手に有害サイトへつなげることや電話をかけることを避けたり、使えばなしにならないように隣で時々話しかけているといった回答が多くあった。4位の「使う機能を制限する」では、機内モードにするなどインターネットに接続できない状態にして写真などを見せるという回答が多かった。

まとめ

最後に、インタラクティブメディアの課題とリスクを検討したい。本調査では、テレビ番組(録画を含む)、インターネット動画・画像、スマートフォン・タブレット端末・パソコンのアプリ・ソフトを子どもに使わせる際に感じるメリット・デメリットを尋ねた結果を示す。(表4、5)。

テレビ番組(録画を含む)、インターネット動画・画像、アプリ・ソフトを乳幼児に使わせる際に感じるメリットとしては、「歌や踊りを楽しめる」(テレビ番組(録画を含む)93.1%、インターネット動画・画像78.1%、アプリ・ソフト66.0%)、「知識が豊かになる」(同79.3%、44.4%、58.3%)、「作る、描くなど表現力を育む」(同59.1%、38.4%、56.0%)が上位にあがっている。テレビ番組(録画を含む)では、「社会のマナーやルールを学べる」も63.2%と高い。アプリ・ソフトでは「小学校以上の学習で役に立つ」が37.6%で、テレビ番組(録画を含む)29.0%、インターネット動画・画像24.9%よりも高い割合となっている。

デメリットとしては、「目や健康に悪い」(テレビ番組(録画を含む)84.3%、インターネット動画・画像84.8%、アプリ・ソフト84.5%)に続いて、メディアに熱中することへの心配(「夢中になり過ぎる」(同75.7%、80.7%、77.0%)、「長時間の視聴や使用が続く」(同72.0%、75.2%、73.8%)、「次のことに切り替えしづらい」(同57.9%、67.3%、64.9%))が上位にあがっている。メディアに熱中することに関しては、乳幼児の発達を踏まえて、生活の中でさまざまな活動をバランスよく行うことが大切であり、外遊びや絵本の読み聞かせなど、バランスよくメディアを使うよう親による適切なコントロールが必要であろう。子どもが興味を持つテーマについて、メディアと実体験をつなげるような工夫も必要と思われる。また、アプリ・ソフトやインターネット動画・画像については「有料サイトや危ないサイトにアクセスする可能性がある」が7割前後を占めている。親の気付かない間に、有害サイトへつながってしまうことを多くの親が危惧していることがわかる。図表には示していないが、スマートフォンやタブレット端末のフィルタリングをかけている割

表3：乳幼児がスマートフォンを使う際に工夫していること(自由記述)

長時間見せない	31.4
使用させない環境をつくる	25.7
親と一緒に使う	18.0
使う機能を制限する	9.2
音や明るさなどの視聴環境に配慮する	7.4
使う場面を制限する	3.7
ルールを決める、モラルを意識させる	2.0
親の使用に問題が生じないように工夫する	1.0
その他	1.6

*「特になし」「使っていない」は除く *回答数 1676 (%)

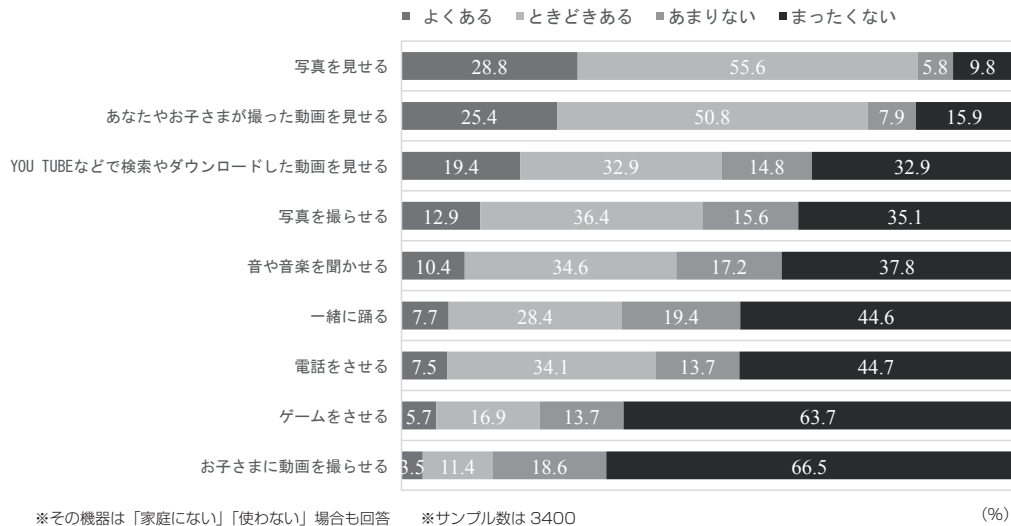
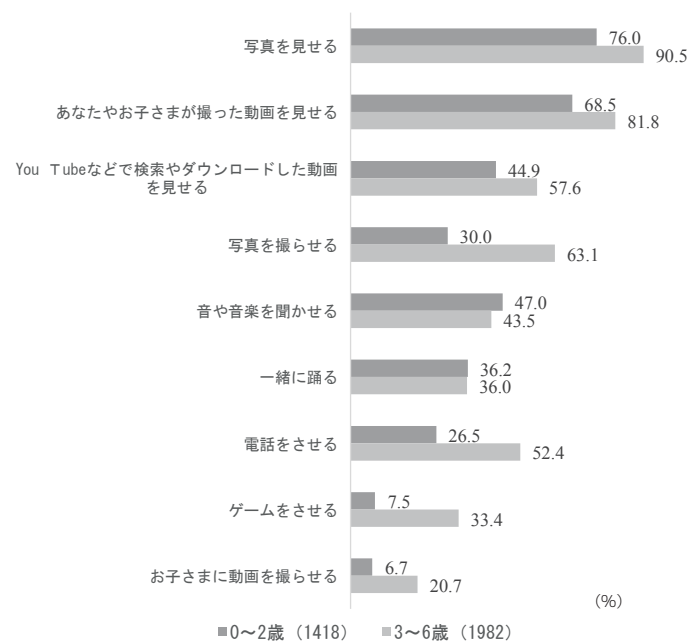


図3：携帯電話、スマートフォン、タブレット端末、パソコンでさせること（2017年）



※「よくある」「とときどきある」の合計 ※その機器は「家庭にない」「使わない」場合も回答 ※サンプル数は 3400

図4：携帯電話、スマートフォン、タブレット端末、パソコンでさせること
：年齢別の比較（2017年、0～2歳／3～6歳別）

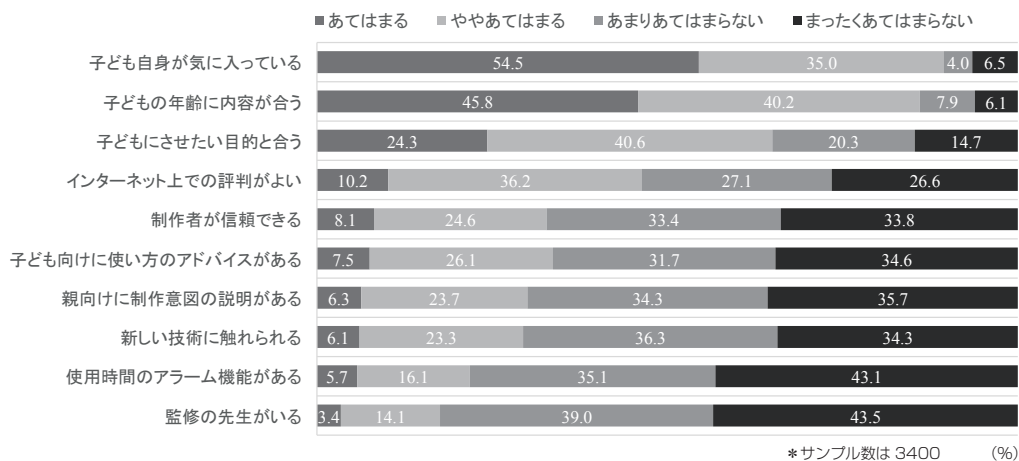


図5：動画やアプリ・ソフトの選択基準（2017年）

合は3～6%である。先述した自由記述にあるように、スマートフォン等の機能を制限したり、一緒に使うことで有料・有害サイトへのアクセスを防いでいる親が多いのではないと思われる。

現在、これほど普及したスマートフォンやタブレット端末などのメディアを乳幼児の親子のコミュニケーションツールとして活かすには、どのようなことが考えられるだろうか。2016年のアメリカ小児科学会誌によると、「30か月以下の子どもは、直接人とふれあうことによると同等の学習をテレビ視聴によって代替することはできないが、スマートフォンなどのインタラクティブメディアは、子どもの働きかけに対して随伴する応答ができるために、新たな教育的意味がありうる」と述べている（APA, 2016）。

今後の課題として、スマートフォンやタブレット端末等の使用時の親子でのやりとりを把握し、どのような機能を使いながら会話ややりとりをすると、子どもの発達にどのような影響を及ぼすのかといった親子のコミュニケーションを媒介する役割についての検討をすることが必要だろう。また、子育て中の親にとっては、さまざまなメディアを上手に取り入れたり、使い

方を工夫している事例を互いに共有し参考にできる場があると、子育てに活かすヒントとなり、親子でメディアリテラシーを身につける機会につながるのではないだろうか。

〈参考文献〉

- American Academy of Pediatrics New Recommendation for Children's Media Use (2016)
NHK 放送文化研究所 “子どもに良い放送” プロジェクト 中間総括報告 0～5歳
佐藤朝美・松本留奈・田村徳子・高岡純子（2013）、「幼児期におけるタブレット端末使用時に対する親の働きかけの特徴：描画アプリを使用したプロトコル分析による検討」愛知淑徳大学論集-人間情報学部篇（6）, pp.17-27.
菅原ますみ（2006） 乳幼児期のテレビ・ビデオ接触の実態および社会情緒の発達との関連－0歳・1歳・2歳の3時点調査から－
ベネッセ教育総合研究所 第5回幼児の生活アンケート（2015）

表4：テレビ番組（録画を含む）、インターネット動画・画像、アプリ・ソフトのメリット（2017年、複数選択）

	テレビ番組（録画を含む）	インターネット動画・画像	アプリ・ソフト（※1）
1位	93.1 歌や踊りを楽しめる	78.1 歌や踊りを楽しめる	66.0 歌や踊りを楽しめる
2位	79.3 知識が豊かになる	44.4 知識が豊かになる	58.3 知識が豊かになる
3位	63.2 社会のマナーやルールを学べる	38.4 作る、描くなど表現力を育む	56.0 作る、描くなど表現力を育む
4位	59.1 作る、描くなど表現力を育む	29.9 親子でのコミュニケーションが増す	37.6 小学校以上の学習で役に立つ
5位	56.9 やさしさ、思いやりなどを育む	24.9 小学校以上の学習で役に立つ	37.5 集中力がつく
6位	52.7 親子でのコミュニケーションが増す	24.6 集中力がつく	36.5 親子でのコミュニケーションが増す
7位	42.8 生活リズムを整えるのに役立つ	23.6 社会のマナーやルールを学べる	32.7 社会のマナーやルールを学べる
8位	34.5 集中力がつく	21.5 やさしさ、思いやりなどを育む	30.9 やさしさ、思いやりなどを育む
9位	31.8 友だちと遊べる	19.6 友だちと遊べる	27.2 友だちと遊べる
10位	29.0 小学校以上の学習で役に立つ	13.8 生活リズムを整えるのに役立つ	19.6 生活リズムを整えるのに役立つ

※ サンプル数は3400 ※ 「とてもそう思う」「まあそう思う」の合計

※※1：スマートフォン、タブレット端末、パソコンのアプリ・ソフト（絵本・英語・お絵かき・ゲームなど）

表5：テレビ番組（録画を含む）、インターネット動画・画像、アプリ・ソフトのデメリット（2017年、複数選択）

	テレビ番組（録画を含む）	インターネット動画・画像	アプリ・ソフト（※1）
1位	84.3 目や健康に悪い	84.8 目や健康に悪い	84.5 目や健康に悪い
2位	75.7 夢中になり過ぎる	80.7 夢中になり過ぎる	77.0 夢中になり過ぎる
3位	72.0 長時間の視聴や使用が続く	75.2 長時間の視聴や使用が続く	73.8 長時間の視聴や使用が続く
4位	57.9 次のことに切り替えづらい	71.3 インターネットでの有料サイトや危ないサイトにアクセスする可能性がある	68.1 インターネットでの有料サイトや危ないサイトにアクセスする可能性がある
5位	54.2 大きくなったとき、依存しないか心配	68.3 大きくなったとき、依存しないか心配	64.9 次のことに切り替えづらい
6位	52.1 受動的になる	67.3 次のことに切り替えづらい	64.7 大きくなったとき、依存しないか心配
7位	46.8 行動や言葉づかいが乱れる	57.1 親子でのコミュニケーションが減る	52.8 受動的になる
8位	46.3 親子でのコミュニケーションが減る	56.3 受動的になる	51.5 親子でのコミュニケーションが減る
9位	41.4 体を動かす遊びとのバランスが崩れる	55.2 生活リズムが乱れる	50.9 生活リズムが乱れる
10位	40.8 生活リズムが乱れる	53.3 行動や言葉づかいが乱れる	49.9 体を動かす遊びとのバランスが崩れる
11位	該当項目なし	49.4 体を動かす遊びとのバランスが崩れる	41.8 行動や言葉づかいが乱れる

※ サンプル数は3400 ※ 「とてもそう思う」「まあそう思う」の合計

※※1：スマートフォン、タブレット端末、パソコンのアプリ・ソフト（絵本・英語・お絵かき・ゲームなど）